

## 貴族院・参議院議員の時代

河井弥八は宮内省を退官後、昭和13年（1938年）にその勤勞により貴族院の勅選議員となり、政界入りした。勅選議員は終身議員であったが、太平洋戦争終結に伴い、日本国憲法が制定されて貴族院は廃止され、参議院となった。衆議院と同様、参議院も選挙によって議員を選出することになった。

第1回参議院議員選挙は、終戦2年後の昭和22年（1947年）に行われ、河井弥八は静岡県選挙区から立候補し、初当選者4人の内3番目の得票であったので3年議員となった。

選挙後、既成政党に飽き足りない無所属議員からは、新憲法の精神を打ち出し、左右に偏らない中道政治をめざし、国会に新風を送るべしとして、新しい会派「緑風会」を発足させた。河井弥八もこれに深く関わり所属した。緑風会は参議院では最大会派となった。

昭和25年（1950年）、第2回参議院議員選挙でも、静岡県選挙区で立候補し見事に当選を果たした。

その3年後の昭和28年（1953年）には、緑風会から推されて参議院議長選挙に臨み、自由党の松野鶴平氏を大差で破って議長に就任した。

しかし、昭和31年（1956年）の第3回参議院議員選挙では、惜しくも落選となった。河井弥八は、貴族院・参議院通算18年に亘る議員生活に別れを告げて政界を引退した。

戦中・戦後の期間、国会議員として身を置いた河井弥八の強く念頭にあったのは、日本国内の食糧不足の懸念であった。当時の国策でもあった食料増産問題を、河井弥八自身も国会の内外において食料増産を図る働きかけをした。この時期、自らが属していた大日本報徳社を中心に、特に甘藷栽培増産運動に力を注いだ。全国各地に大日本報徳社の農事講師を派遣するなどして、甘藷多収穫栽培法の普及に努め、大きな実績を残した。